

# 令和5年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	① 生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指し、多様な学習活動において深い学びを実現していく。	① 知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等、育みたい三つの資質・能力の育成に向けて、探究的な学びを推進し、相互の関連性を図るとともに、組織的な授業改善を多面的に進めていく。	①-1 校内授業研究テーマを踏まえた職員研修会や授業公開を積極的に行い、組織的な授業改善を実施する。 ①-2 授業のみならず、生徒の探究的な学びの成果を報告・発表する機会の充実を図る。	①-1 校内授業研究テーマを各教科で設定し、テーマを踏まえた授業改善を実施できたか。 ①-2 魅力と特色アンケート「A-4」の肯定項目が9割以上か。生徒による授業評価（項目6及び学校独自項目）の「かなり当てはまる」が4割以上か。
		② 横浜国立大学との中・高・大連携型教育の一層の充実を図る。	② 中高大連携作業部会の活動を通じて、県立高校改革実施計画に示された中高大連携を充実・発展させる。	② これまでの取組を評価し、それを共有することで、横浜国立大学教育学部附属横浜中学校、横浜国立大学との連携を一層深める。	② 中・高・大連携によるこれからの教育実践モデルの構築実施計画の評価を行い、それを共有することができたか。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	① 生徒会活動、部活動の充実をさらに図り、リーダーシップと協働し支える力を育む。	① 新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴い、活動の幅が広がった。コロナ禍での活動で起きた良い変化を継続しながら、より活発な活動が行えるように体制づくりを進める。	① 活動制約の中で行ってきた創意工夫を活かしながら、生徒の心身の状況や教職員の働き方に留意し、計画的に支援・指導を行う。	① 学校生活アンケートで「学校行事におけるクラスのまとまり」及び「部活動に満足している」の肯定項目が8割以上か。
		② 学校行事等において、生徒一人ひとりが高い目標を持ち、主体的に参画していけるよう支援を行う。	② 行事を通して、集団の中の1人であることを意識させ、主体的な取組だけでなく、集団全体を導くリーダーシップをとれるように支援する。	② 所属する集団の中で自身の役割が何かを自覚させることで、主体的な行動を促す。また生徒会や委員会、教職員との連携を密にとらせ、行事が成功するように集団を導く力が身につくように支援する。	② 学校生活アンケート「体育祭」「光陵祭」「学芸音楽祭」の肯定項目が8割以上か。
		③ 生徒一人ひとりに応じた支援を行う。	③ どんな支援が必要な生徒かを把握し、SCやSSW、外部機関も含めて、個別支援ができるよう学校全体で支援体制を整える。	③ 情報共有の場を設け、学校全体で支援が必要な生徒の状況を把握する。SCやSSWと協力し、状況次第で外部機関につなぎ、早期の状況改善に努める。	③ 生徒状況の把握について、情報共有が図れたか。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	① 高大接続改革（高校教育、大学入学者選抜、大学教育）を見据えて、総合的な探究の時間をはじめとした教育活動を展開し、生徒による自己の在り方生き方の探求を支援する。	①-1 高大接続改革に係る情報収集、分析を綿密に実施し、生徒が自らの将来について主体的に探究することができるように、キャリア教育を実施する。 ①-2 生徒がより高い目標をもって進路選択ができるように、3年間を見通した進路支援を計画・実施する。 ①-3 教職を志す生徒のための支援を充実させる。	①-1 各教科・科目等を始めとしたすべての教育活動において生徒のキャリア形成につながるようキャリア教育、ガイダンス機能の充実を図る。  ①-2 生徒が最も希望する進路の実現に向け、生徒・保護者対象のキャリアガイダンスや、夏期講習等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取組を実施し、教職員の情報共有を促進する。 ①-3 教職を希望する生徒のために学校設定科目「教職基礎」「教職基礎演習」の設定と実施。	①-1 魅力と特色アンケート「キャリア教育を受けたことにより、自分が成長できたと思うか」の肯定項目が8割以上か。 ①-2 キャリアガイダンスや夏期講習等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取組が、多面的に行われたか。 ①-3 学校設定科目「教職基礎」「教職基礎演習」において、充実した支援を行ったか。
4	地域等との協働	① 地域との連携を推進することで、多様性を尊重し、生徒の社会性や協働する力を育む。	①-1 コロナ禍前に実施していた行事やイベントを再開し、生徒の社会性、協働する力を養う。 ①-2 本校の教育活動を外部に広く発信していく。	①-1 近隣学校との交流事業や、地域貢献活動を継続して実施し、コミュニケーション能力の育成と他者理解を深める。 ①-2 学校説明会やホームページ等を活用し、本校の教育活動についての情報発信を行う。	①-1 参加した生徒が、自己肯定感、協働、活動の楽しさ等の満足感を得ることができたか。 ①-2 学校説明会等におけるアンケートにおいて「本校の教育活動への理解」等に関する肯定項目が8割以上か。
5	学校管理 学校運営	① 学校がめざす姿を共有し、その実現に向けて協働して取り組める組織とする。 ② コミュニティスクールとして、学校運営協議会委員会で意向を踏まえ、よりよい教育環境を整備する。 ③ 生徒が安心して通うことのできる体制を作る。 ④ 耐震工事の機会を利用し、教育環境の整備を行う。 ⑤ 生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①②③ 事故防止を徹底するために、教職員間のコミュニケーションに努め、情報共有を図る。また、体育館の改修工事に関する対応が迫られる中で職員のレジリエンスに対する理解を深める。 ④ 体育館改修工事の安全確保と良質な学習環境を整備する。 ⑤ 働き方改革を推進し、長時間勤務を是正する。	①②③ 多様な職員研修を実施し、中堅教員、ベテラン教員の経験を生かした若手教員のサポート体制及び学校運営協議会の意向を踏まえ、よりよい環境づくりに努める。また、生徒の状況把握や職員の連絡体制を充実させる。 ④ 体育館改修工事で教育活動にできるだけ支障のないよう関係機関との調整を行い、安全安心で快適な学習環境づくりに努める。 ⑤ ICT利活用を推進し、職員の報告・連絡・相談体制の整備及び勤務時間内の会議の徹底を図る。	① 職員研修の実施回数が12回以上か。 ② 職員への情報発信による共有化に努めるとともに、学校から外部への情報発信が推進できたか。 ③ レジリエンスに対する理解を研修や情報提供によって深めることができたか。 ④ 体育館改修工事中の学習環境を整え、生徒が安心安全に活動することを確保できたか。 ⑤ 教職員がICT利活用等により、組織的な学校運営と校務の効率化が図られたと実感できたか。